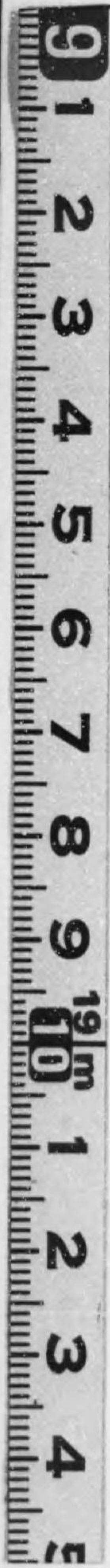


特113

889

松
風



始



特113
889



			ワ キ 旅	ツ レ 村 (七)	シ テ 松 (七)	役 別
			僧	雨 雲 水 桶	風 雲	装
			着流し僧壹人	(蘭)小面 襟 裳 同帶 着附箔 縫箔腰卷 腰卷 白水衣	(蘭)増、小面、孫次郎にてし、襟 裳 同帶 着附箔 縫箔 腰卷 白水衣 扇	東 附
目	番	三	種別	津須願の浦	攝津願須の浦	所
	月			大正	大正	季
				6	4	7
				内交		

松風

内之部巻之十ノ三

松風一

解説

始め嬖子方座着き、松の作物正先へ出す。
夫より名宣笛にてワキ出で、舞臺に入り諺ふ。

ワキ表 『是は諸國一見の僧にて候』 此名宣位あり、詞濟みて狂言と懸合あり、終つて中へ出で『扱は此松は』と諺ふ。諺ひ方心得あり。『一夜を明さねはやと思ひ候』と、諺ひ果てて、ワキ座に行き下にある。

此處にて作物車、水桶を戴せ舞臺角かけて出す。

夫より眞ノ一聲にてシテ、ツレを先に立て出で、脇能の通り橋懸にて向き合ひ諺ひ出す。尤もその心得方は脇能とは相違す。二ノ句、連吟濟み、ツレよりシテと舞臺に入り、ツレ中に立ち、シテは常座にて留め、

ニテ表 『心づくしの秋風に』 と、納めて諺ふべし。

三表 『實にや浮世の業ながら』 此處は少し引立て、ハツキリ諺ふ。

初三表 『かく計り経がたく見ゆる世の中に』 初回は大事につけて諺ふ。

地同 『影はづかしき我姿』 此地どころ諺ひ方心得多し、口傳

シテ表 『面白や馴れても須磨の夕まぐれ』 此處もハツキリと諺ふべし。

シテ表 『いざ／＼鹽を汲まんとて』 此處より引立て、諺ふ。

地同 『寄せてはかへる瀧を波』 此地はかゝつてつけ諺ふ。此地シテに種々の形あり、緩急等篤と心得、考へ諺ふべきなり、口傳。

六表 『運ぶは遠き陸奥の』 此ロンギ、調子の工合考へて諺ひ出すべし。

ロンギの留め、『うしとも思はぬ鹽路かなや』にて、シテ、中に行き床几、ツレはシテの右の方にて下に居る。此處にて作物車等引く。終つて、

七表 『鹽屋の主の歸りて候』 と、ワキは諺ふ。此以下の懸合心得多し、氣なしには諺ふべからず。

八表 『實にや思ひ内にあれば』 此連吟しつとりと諺ふべし。

九表 『此上は何をかさのみつ、むべき』 此處よりクドキ、叮嚀に、而も重からず、さらりと諺ふ。

十表 『戀草の露も思ひも亂れつ、』 此處より氣を變へて諺ふ。此地にてツレ、立ち、シテの後を

十三表 『哀れに消えしうき身なり』 クセ前少し締めて諺ふ。

十四表 『かけてそ頼む同じ世に』 此處にてシテ、床几より立ち、形あれば心得て諺ふべし。クセ止

め『伏し沈む事ぞ悲しき』にて、シテ、平臥。物着、水衣脱ぎ、金風折、長絹着け、

扇持つ。物着濟み、作物へ向ひシテ、コイ合を聞いて、

十五表 『三瀬川、絶えぬ涙のうき瀧にも』 と諺めて諺ふ。『亂る、戀の淵はありけり』

にて又シテ、松を見て、

同 『あら嬉しやあれに行平の……』 と、かゝつて誦ふ。『いて参らふ』の所にてシテ立

つと、ツレも立ち、

十五枚裏 『羨ましやその御心故にこそ』 と誦ひながらシテを留める。此後の懸合心得多し、篤と心つ

けて誦ふべし。

十六枚裏 『立ち別れ』 此處にて二人ともシラリ、ツレは笛の上へ、シテは橋懸へ行き、イコエが、リ中ノ舞。

十七枚表 『是はなつかし君こゝに』 此邊より追々に進み誦ひ『そなれ松のなつかしや』と、破

ノ舞。此以下キリ、シテに形種々あれば見計ひ誦ふべきなり。

松風

同

是を諒國つらむ御よ。我ま西
 國よむ。御心故にこそ
 行脚と志し。御心故にこそ
 津の國に。御心故にこそ
 あり。御心故にこそ。

松

ねのらぬおぼろのついでに

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

ね

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

あつらひのうらなひの

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

松の葉は青く
 花は白く
 実を食す
 其の味は
 甘く
 香る
 松の皮は
 厚く
 灰を採る
 其の灰は
 白く
 滑り
 松の根は
 深く
 土を穿つ

松の葉は青く
 花は白く
 実を食す
 其の味は
 甘く
 香る
 松の皮は
 厚く
 灰を採る
 其の灰は
 白く
 滑り
 松の根は
 深く
 土を穿つ

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、



著作權所有

大正五年四月

四日印刷
九日發行

東京市深川區西平野町一番地

著者 寶生九郎

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行者 江島伊兵衛

東京市日本橋區通四丁目八番地

發行所 椀屋謠曲書肆

東京市神田區皆川町二番地

印刷者 田村茂太郎



終

